



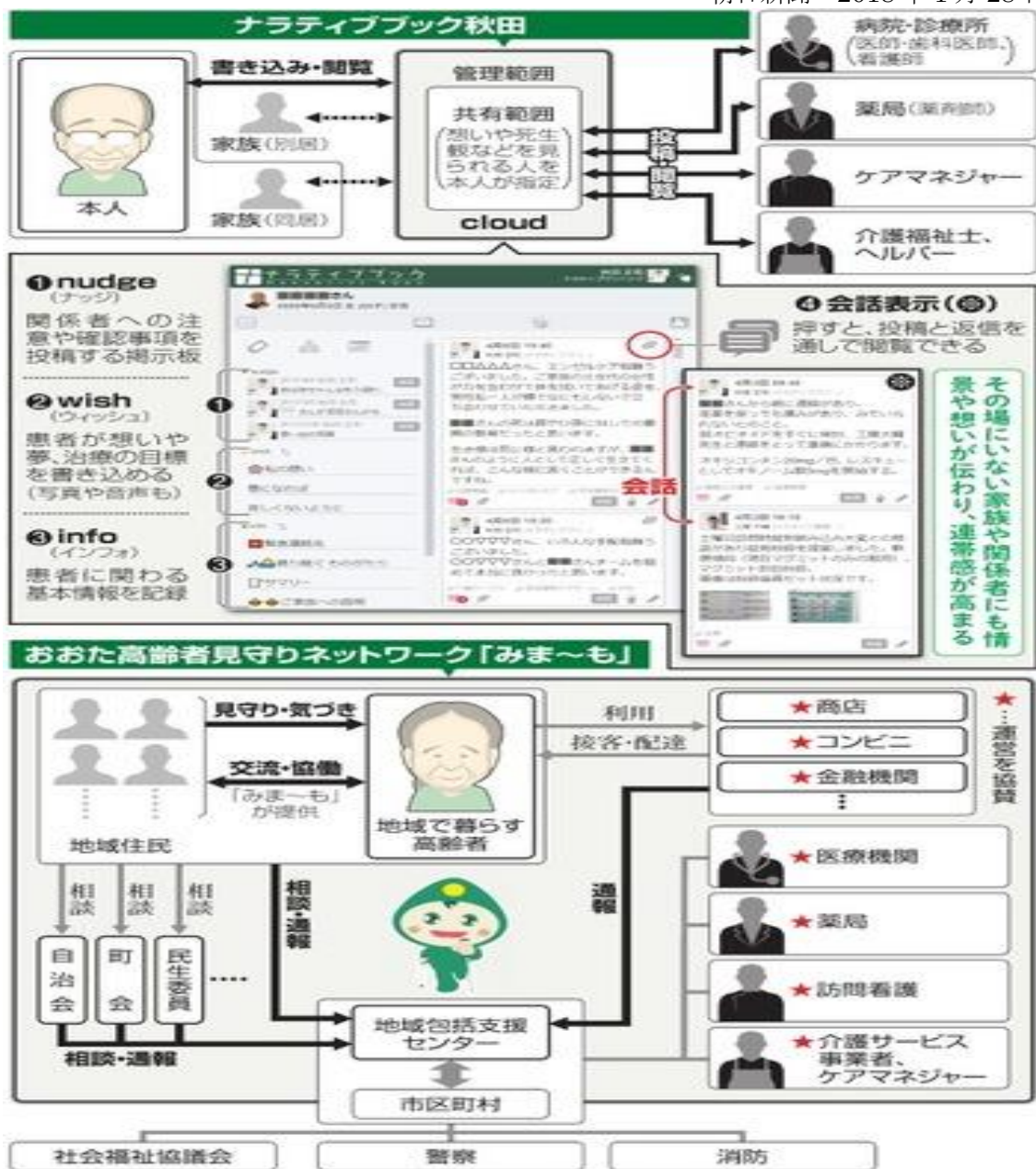
大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

# 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4173号 2018.1.28 発行

最期を地域で、お年寄り支えるネットワーク最前線 鈴木淑子

朝日新聞 2018年1月28日



高齢化の進展で、長期間複数の病気とつき合いながら暮らす人が増えている。それを受け、医療もこれまでの「治す」中心から「治し、支える」に変わりつつある。高齢期を、住み慣れた地域で生き切るには、さまざまな職種の人との連携や住民同士の支え合い、自分らしい最期の迎え方を伝えられる環境が必要だ。そんな先進事例を見た。

### 最期のケア、ネット介し「想い」共有

介助がないと歩けない女性は、「歩いて京都に行きたい」と、「夢」を綴（つづ）る。末期のがんの男性は、延命治療も、チューブで直接胃に栄養剤を送る胃ろうも望まないが、痛みをとる治療はしてほしいと伝えていた。

秋田県南部、日本海に面する由利本荘市と、にかほ市を管轄する由利本荘医師会が2015年から運営している一見、SNS（交流サイト）のような連携ツール「ナラティブブック秋田」。在宅で治療やケアを受ける患者とその家族、かかりつけの医師や看護師、薬剤師、介護の専門職らがインターネットのクラウドサービスを使ってさまざまな情報を共有し合う。

### 「寝たきり芸人」あそどっぐ、重度障害者の日常ギャグに 池上桃子

朝日新聞 2018年1月28日

「寝たきり芸人」として活躍し、写真集も出したあそどっぐ  
＝熊本県合志市



熊本のお笑い芸人「あそどっぐ」をご存じでしょうか？難病で顔と左手の親指しか自由に動かせない、自称「世界初の寝たきり芸人」。自らの障害をネタにしたギャグが動画投稿サイトなどで注目され、昨年夏に発売された写真集も話題にな



った。笑っていいのか戸惑うこともあるが、本人は「僕は芸人。人を感動させたいんじゃなくて笑わせたいんです。遠慮なく笑ってほしい」と話す。

本名は阿曾太一さん（39）。熊本県合志市在住。幼い頃、全身の筋力が低下していく「脊髄（せきずい）性筋萎縮症」と診断された。移動は車いすではなく、大人の腰の高さほどのストレッチャー。寝そべったまま押しもらい、ステージには抱えてあげてもらう。顔の表情と言葉を駆使してギャグを披露する。

「生後1カ月のおいっ子がヨチヨチ歩きを始めた時、叔父を超えたな...と思う」。ピンクのドレスで女装して、「世界一安全な変態」。重度障害者としての日常生活を切り取ったギャグは自虐的と評されることもあるが、本人は「僕のネタはポップだと思う」。最近はライブを開いたり、NHKの障害者情報バラエティー番組「バ



リバラ」に出演したりしている。

福岡県内の養護学校高等部1年生の頃、怖い先輩に強制されて初めて披露したコントが大受け。同級生らの笑顔を見て、「人を笑わせる気持ちよさに病みつきになった」。一緒にネタをやった、筋ジストロフィーを患う同級生とコンビを組み、プロを目指すことを決意。しかし、同級生は23歳の若さで他界した。ショックで一時は諦めかけた。

再びプロを目指そうと、自作のギャグを2011年から動画サイトの「ニコニコ動画」や「ユーチューブ」に投稿し始めた。退路を断つため、収入源にしていた株取引もやめた。

初めてのお笑いライブは14年、福岡市で開かれたイベント。「客が引いたら、次からはお断りするかもしれません」と出演の条件を示され、「障害者ではなく一人の芸人として接してくれて、うれしかった」と振り返る。

初舞台では芸人仲間にいじられることから始めた。イベントを主催した福岡市のお笑い芸人「かんだ〜にゃ」さん(40)は「あそどっぐさんはハートが強い。腫れ物に触るような雰囲気では面白くないから、遠慮なくいじった。本人もそれを望んでいた」と話す。

いまでは屈託なく障害を笑いにするが、つらい経験もあった。高等部3年の時、進路指導の先生にこう言われた。「重度障害者は高校を出たら家か施設で暮らすしかない。下手に夢を持たせてはかわいそう」

でも、今はその言葉に感謝しているという。「先生のおかげで僕は大学に行かなかったし、就職もしなかった。だからいま、芸人をやっているのかも」

## イオンに親の交流・相談の場 京都で試験事業



京都新聞 2018年1月28日  
商業施設内に設けられたイベントコーナーで、人形を使った物語を見る親子連れ(京都市南区吉祥院・イオン洛南ショッピングセンター)

買い物に来た親子に立ち寄りてもらい、子どもを持つ親同士の交流を支援する拠点づくりが、京都市南区の大型商業施設で進んでいる。定期的に子どもの遊び場を設けて、児童館職員らが親から相談を受けたり他の親との交流を促したりする目的。4月以降の本格実施に向けて、同区の3カ所で試験事業が始まっている。

23日、南区吉祥院のイオン洛南ショッピングセンターに初めて開設された。子ども用の遊び場と隣接するフードコートで、近隣の6児童館の職員が、輪投げや的当てを設置。手作りの人形でお話を展開するエプロンシアターなどを催した。1時間ほどで150人を超える親子が訪れ、楽しそうに遊ぶ姿が見られた。保健師や保育士による相談コーナーも設けられ、気軽に立ち話をして日ごろの子育ての疑問を尋ねる母親の姿もあった。

この事業は、南区役所とイオンモールが、孤立しがちな親同士の交流や子育ての悩みの解決などを目指して、大型商業施設を展開するイオングループと共同で企画した。来年度からは区内の民生児童委員会や社会福祉協議会、子育て支援ボランティアらも加わって拠点づくりを本格的に進める計画だ。

31日午前11時から同区西九条のイオンモールKYOTOで約1時間、同様のイベントが開かれる。参加無料。

かわいい、一転エログロ 子ども標的不適切動画 「エルサゲート」まん延 識者スマホ育児に警鐘  
西日本新聞 2018年01月28日

エルサゲートと指摘された動画の冒頭。子どもに悪影響が懸念される内容を含むが、一見ただけでは分かりにくい（ユーチューブより）



インターネットの動画サイトで子どもにアニメを見せていたら、いきなり残酷な内容に。子育て中の親の間で、そうした悪質な動画が問題化している。一見かわいらしい作品のため、運営会社の規制をすり抜けているのが現状だ。子どもをスマートフォンで遊ばせる「スマホ育児」が広がる中、関係者は「子どもが見ると、悪影響がある」と注意を呼び掛けている。

米IT大手グーグル傘下の動画投稿サイト「ユーチューブ」。ディズニーの人気キャラクターに似たキャラが映る画面をクリックすると、10分半の動画が始まった。最初こそキャラクターが絵を描いているが、排せつ行為や木から転落して流血、女性が挑発的に誘惑する場面が出てくる。

こうした動画は「エルサゲート」と呼ばれている。有名アニメ映画「アナと雪の女王」のヒロインの名と、政治スキャンダルを呼ぶ際に使われる英語の接尾語を合わせた造語だ。

ユーチューブには自動再生機能がある。有効にすると関連動画が続けて再生されるため、エルサゲートが次々と流れる恐れがある。ユーチューブは、プログラムによる検出や視聴者からの報告で不適切な動画を削除するが、エルサゲートは数が多い上に「色を学ぶ」などのタイトルで幼児教育用を装っており、監視が追い付いていないようだ。

海外では社会問題となっている。英BBC放送は昨年3月に「類似の動画が数百件あり、数百万回視聴されたものもある」と伝え、米紙ニューヨーク・タイムズも同11月に「多くの人が警告している」と報じた。中国当局は今年22日、動画サイト運営者に「不適切な子ども向け動画」の取り締まりを求めたと中国共産党機関紙、人民日報のウェブサイト「人民網」が伝えた。

エルサゲートの背景は不明だが、動画の再生回数に応じた広告収入を得ることが目的という指摘もある。日本では今年、育児中の母親という人物が騒動をブログで紹介し、懸念が広まった。最近では日本語版も目立つ。

西日本新聞は、ネットでエルサゲートと指摘された日本語版投稿者3人に意図を問うメッセージを送ったが、27日までに返信はない。グーグルの日本法人は「人的、技術的資源を増強し、対処できるよう全力を尽くしている」としている。

学識経験者らによる「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」の2016年の調査によると、0歳児の2割、1歳児の4割、2～5歳児の6割がスマホなどの情報端末を利用。家事などで手が離せない時、情報端末を与えて動画やゲームで遊ばせる保護者は少なくない。

育児情報誌「miku」の高祖常子編集長は「子どもが好きなキャラと思いエルサゲートを見ればショックは大きく、心的外傷（トラウマ）が心配。スマホを使うなら、信頼できるサイトを選ぶことが重要だ」と話している。

## 兵庫の障害者雇用率2%超 法定義務、企業の半数達成 神戸新聞 2018年1月28日

兵庫県内で従業員50人以上の企業における障害者の雇用率が2.03%となり、法律で義務付けられた雇用率2%を初めて突破した。対象となる3157社のうち、達成企業数は前年より64社多い1663社で、52.7%を占めた。一方、今年4月からは法定雇用率が2.2%に引き上げられるため、未達成企業が増える可能性が高く、企業にはさらなる採用努力が求められそうだ。

兵庫労働局によると、2017年6月時点で対象企業に雇用されている障害者数は前年

比5・7%増の1万4165人。14年連続で過去最高を更新した。全国の雇用率は1・97%で、兵庫県が0・06ポイント上回った。



増加の背景には、15年から法定雇用率の未達成企業に課せられる納付金の対象が拡大したことなどがある。さらに今年4月から、障害者雇用の対象に統合失調症など精神障害者が加わることもあり、企業側に積極採用の機運が高まっているとみられる。

ただ、人材サービス「エン・ジャパン」(東京)が昨年行ったインターネット調査によると、雇用率引き上げについて「知らない」と回答した企業

が40%に達した。企業側に障害者の就労に対する理解が広く浸透していない現状がある。精神障害者が対象に追加されるのを「知らない」とした企業も48%に上った。

また、13年に法定雇用率が1・8%から2%に引き上げられた際は、県内達成企業の割合が54%から47・4%まで低下した。兵庫労働局は「今回も下がる可能性は高い」と警戒しており、未達成企業を中心に障害者の採用を呼び掛けている。(末永陽子)

【障害者雇用】 障害者雇用促進法は、企業に従業員の2%以上の障害者雇用を義務付けている。身体、知的障害者に加え、2018年4月から精神障害者の雇用も義務化され、法定雇用率も2・2%に引き上げられる。法定雇用率は原則、週30時間以上勤務の障害者を1人、週20時間以上30時間未満を0・5人として算出。短時間勤務を希望する精神障害者の雇用を促すため、今年4月から5年間の特例措置として、週20時間以上30時間未満で一定の基準に合う人も1人に数える。

## 重度障害者が地元で居場所 高山で短期入所事業所開設へ 中日新聞 2018年1月28日



きららハウスで利用者の作業を見守る道添さん(左から2人目)＝高山市三福寺町で

高山市のNPO法人「さんしょうの会」は四月、重度の障害者も利用できる短期入所事業所「きららの家」を同市匠ヶ丘町に開設する。同会によると、飛騨地域では重度障害者が介助を受けながら生活できる環境が、まだまだ整っていない。関係者は「障害のある人たちも生まれ育った飛騨で、生涯暮らし続けられる手助けをしたい」と思いを込める。

同会は、飛騨特別支援学校に通う子どもの保護者と教諭の有志でつくる「障害児教育をよくする会」が前身で、二〇〇二年に発足。学校を卒業した障害者も働ける場所をつくるため、翌年に同市三福寺町に障害福祉サービス事業所「きららハウス」を設立した。現在、事業所は三カ所で、約四十人が通っている。

きららの家開設の背景には、障害者が親の高齢化などで、家庭での生活が困難になった場合、飛騨地域では入所できる施設が少ないといった現状がある。同ハウスでは数年前、重度の障害があった女性が親を亡くし、神奈川県にある施設への移動を余儀なくされたという例もある。

同家は定員六人で、介護福祉士や看護師らが常駐する。最大一週間程度の入所で、職員たちは食事などの介助や身の回りの世話をする。施設で一定期間を過ごすことで、家族の負担を減らしたいとの思いもある。施設長の道添健太郎さん(44)は「近年は親の高齢化も深刻。利用者も家族も安心して暮らしていけるような地域にしたい」と話す。

同家の開設には約二千八百万円の資金が必要。入所を希望する家族や同会の職員らが設

立委員会を立ち上げ、街頭で募金活動をするほか、インターネット上で資金を集める「クラウドファンディング」に思いを託し、飛騨信用組合（高山市）の「FAAVO飛騨・高山」で二月二十七日まで募っている。道添さんは「利用者が地域社会の中で生活するため、少しでも協力いただけるとありがたい」と話している。（問）さんしょうの会＝0577（32）8709（坂本圭佑）

### 難聴でも人命救助できる 芦屋で心肺蘇生法講習会

神戸新聞 2018年1月27日

難聴や中途失聴の人らに心肺蘇生法などを教える講習会が27日、兵庫県芦屋市呉川町の木口記念会館であった。講師の説明を要約筆記でスクリーンに映し出すなど伝え方を工夫。約10人が有事の対応を学んだ。



スクリーンで要約筆記の説明を確認しながら、AEDの使い方を教える大坪代表（左端）＝芦屋市呉川町14

主催した任意団体「Link（リンク）」＝神戸市須磨区＝の大坪健二代表（41）は、2011年におたふく風邪の合併症で右耳の聴力を失ったことをきっかけに、聴覚障害者を支援する同団体を設立。応急救護を教える「MFAインストラクター」の資格を生かして、講習を開いている。

### 不要ウェアでホームレス支援 姫路ゴルフ協会

神戸新聞 2018年1月28日

協会の募集に応じて、集まったゴルフウェア＝姫路市大塩町



兵庫県姫路市ゴルフ協会は、ホームレスの人たちに防寒着として使ってもらうため、一般プレーヤーに使わなくなったゴルフウェアの提供を募っている。

路上生活者らの自立を支援するNPO法人「釜ヶ崎支援機構」（大阪市西成区）の取り組みの一環。

同機構は全国から集まった衣類などを、1日約100人の同市内のホームレスや日雇い労働者に配布。冬場は上着が不足しがちで、暖かく体を動かしやすいゴルフウェアは特に重宝がられるという。

同協会は本年度からこの取り組みに参加。加盟する市内のゴルフ場や練習場が、利用客にウェアの提供を呼び掛けた。昨年未までに約170着が集まったという。

今月末まで2度目の募集を行う。男性用で洗濯済みのウェアに限る。

同協会の野瀬操会長は「流行の変化でたんすに眠らせている人も多い。今後も継続して募集していきたい」と話していた。（小林良多）

ウェアの主な受付場所は次の通り。

青山ゴルフクラブ（青山）▽旭国際姫路ゴルフ倶楽部（香寺町）▽白鷺ゴルフクラブ（山田町）▽姫路シーサイドゴルフコース（大塩町）▽エブナゴルフセンター（豊富町）▽ニッケゴルフ倶楽部京ロセンター（城東町）

### 琢夢さんの雑巾 評判に 小松の障害者施設

中日新聞 2018年1月28日

小松市金平町の障害者支援施設「うめの木学園」を利用する下出琢夢（たくむ）さん（2

2) =同市=が、得意のミシンの技術を生かして作った雑巾が評判を呼んでいる。商品名は「琢夢さんの雑巾」。施設によると、利用者の名前入りの商品を販売するのは初めて。ミシンの腕が見込まれて、市消防本部からは市内にある消火栓の場所を示す旗作りを依頼され、製作に取り組んでいる。(長屋文太)



自分で作った雑巾を「作ったよ」と言って紹介する下出琢夢さん=小松市金平町で

下出さんは広汎性発達障害と知的障害があり、二〇一四年春から同施設に通っている。小学生のときからミシンに興味を示していて操作が得意。ミシンを使う仕事に取り組む利用者はこれまでいなかったが、下出さんの意向をくんで支援員の桶(おけ)奈美さん(41)が指導を始めた。縫う場所に線を引き、手順を何度も確認しながら縫い方を覚えた。

雑巾は横三十センチ、縦十八センチ。同市蓮代寺町の「道の駅こまつ木場潟」で販売しており、約八

百枚が売れた。一枚入りは百二十円で、二枚入りは二百二十円。フェースタオルを四つ折りにして縫い合わせており、丈夫さが売り。満面の笑みでピースをする下出さんの顔写真の紙と一緒に袋詰めされている。

担当支援員の松原健治さん(32)によると、下出さんはマイペースでおだやかな性格。仕事に取り掛かるまで時間がかかることもあるが、始めると集中力を発揮。ミシンを手際よく動かし、一時間半の作業時間で二十枚ほど縫う。母親の弘美さん(52)は「得意なことを生かして皆さんのお手伝いができるのはうれしい。本人の励みにもなっている」と喜ぶ。

下出さんが作った消火栓の存在を示す赤色の旗=小松市金平町で  
消火栓示す旗の製作も

市消防本部から受けた仕事は、積雪時に消火栓がどこにあるか示す約三十センチ四方の赤色の旗の製作。一昨年十月から作り始め、七百枚を製作した。松原さんは「ミシンを使った仕事の下出さんの能力を伸ばしている。琢夢さんがやりたい仕事があれば今後も注文を引き受けたい」と話していた。

社説：犬の年、人の年 週のはじめに考える 中日新聞 2018年1月28日

ITはじめ、世の中の変化のスピードは目も眩(くら)むほど。各方面で「より速く」が突き詰められ、人が置いてきぼりにされるような心許(もと)なさも感じます。

昨秋、ノーベル文学賞受賞を機にカズオ・イシグロさんの『日の名残り』を読み返した時、新鮮な驚きがありました。物語を流れる時間の緩慢さ、です。

名家の執事スティーブンスが何日もかけて車の旅をし、手紙をよこした元同僚の女性を気遣って会いに行く筋書き。現代なら、メールのやりとりで、下手をすれば、ものの数分で終わってしまう話かもしれません。

より便利に=より速く

しかし、ゆっくり旅をするからこそ、物語—英国の香気をたたえて綴(つづ)られる、切なくて、いささか滑稽なスティーブンスの回想が入り込む余地が生まれるのです。

かつて、遠方の誰かに何か伝えたいことがあれば、それは書状の形で、徒歩や馬で運ばれました。わが国なら、飛脚がまず思い浮かびます。例えば、「正六」と呼ばれた江戸時代の定飛脚だと、江戸から上方まで六日間かけて運んだのだそうです。

ましこ・ひでのり著『加速化依存症』からの孫引きですが、米国の社会学者の表現を借りれば「人の旅のスピードがコミュニケーションのスピードの上限であった」わけです。

それがどうでしょう。人は一歩も動かずに、メールで地球の裏側とだって瞬時に成立す

るのが現代のコミュニケーション。思えば、無闇（むやみ）に速くなったものです。

人間の歴史とは、改良の歴史でありましょう。今、暮らしの中にあるもののほとんどは、昔々に原型が生まれたものの改良に次ぐ改良の結果です。改良とは「より便利に」という人間の欲望にこたえていくこと。そして、それは、コミュニケーションの変遷もしかり、多くの場合、「より速く」と同義でした。

## AIと黒魔術

昨今、途方もない速度で改良されているのが人工知能、AIです。人には到底不可能なスピードで大量のデータを覚え、深層学習（ディープラーニング）なる方法で自ら学んでどんどん賢くなる。

去年は、至極分かりやすい形でAIの能力が世間を騒がせました。囲碁では世界最強とされる中国人棋士が、将棋では佐藤天彦名人がともに完敗したのです。既に医療や投資など多くの分野でAIの活躍は始まっており、米GMがほぼ完全な自動運転車の来年、実用化を発表するなど自動運転時代も間近に迫っています。

戌（いぬ）年とは無関係ですが、前掲書によれば、IT分野での技術革新の速度を表現するに、人間の七倍のスピードで成長する犬にたとえて、「ドッグイヤー（犬の年）」という言い方があるとか（さらには十八倍のネズミになぞらえ「マウスイヤー」とも）。「人の年」を生きる者に、置き去りにされる感覚が生まれるのも道理です。

AIでは、さらに気になることが。佐藤名人を負かしたPonanzaの開発者、山本一成さんは昨年、NHKの番組でこう語っています。「科学者やエンジニア達は今、少し困った状況になっています。それは、人工知能の性能を上げるほど、なぜ性能が上がったのかを説明できなくなっているのです」「Ponanzaはすでに理論や理屈だけではわからない部分が沢山（たくさん）でてきています」「私から見るとPonanzaはますます黒魔術化しているようにみえるのです」

「黒魔術」とは穏やかではありませんが、なぜ効果が出るのかわからない技術を指すAI世界の俗語だとか。作った人間にも理解できないAIの成長…。その語感通り、正直、不気味です。

一方、米国などでは、AI利用のロボット兵士や兵器の開発も急と聞きます。囲碁や将棋でなく、リアルに人をやっつける…。背筋が寒くなります。

確かに、特に忙しいわけでもないのに、エレベーターの「閉」ボタンを押したりするのが私たち。「急ぐ」のは人間の性（さが）なのでしょう。きっと時間は無限なのに人間の寿命は有限だから。結局、人間にとって最も浪費したくない資源は時間なのかもしれません。

## 人間は、速度を落とせるか

でも、さればこそ余計に、人は「急ぐ」怖さを戒めてきた。「急（せ）いてはことをし損じる」とか「急がば回れ」とか。同義の諺（ことわざ）、格言は世界に数多（あまた）あります。

恐るべき速さで進むIT革新も要は、人を幸福にするためでしょう。ならば一度、止まる、それが無理なら、せめて犬やネズミでなく「人の年」に速度を落とすべきでしょう。まずは、どう向き合っていくべきかを人間がゆっくり確かに考えられるように。人間が、試されている気もしてきます。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

